

とした定期的な指導・管理を継続していく予定である。

10) 当院で経験したCat Cry Syndrome (5p-症候群) の全身麻酔下歯科治療経験

○佐藤 潤, 渡辺 正博, 川合 宏仁, 山崎 信也
相澤 徳久¹, 島村 和宏², 鈴木 康生²
(奥羽大・歯・口腔外科,
・成長発育歯)

【緒言】5p-症候群はCat Cry Syndrome (猫鳴き症候群) と呼ばれ, 5番目染色体の一部の欠損または転座による遺伝性疾患である。発生率は5,000人に1人の割合で, 男女比は5:7で, 知的障害を伴うことが多い。ほとんどは親からの遺伝ではなく, 突然変異で発症する。今回, 知的障害を伴った7歳女児の5p-症候群の日帰り全身麻酔における歯科治療を経験したので若干の考察を加え報告する。

【症例】対象は7才の女児で, 身長113cm, 体重17kg, 出生時に5p-症候群と診断された。歯科検診にてう蝕を指摘されるも, 拒否が強く意識下歯科治療ができないため, 家族の希望により全身麻酔下歯科治療の適応となった。

【経過と考察】本症例は, 静脈内鎮静法ではさらに不穏となる可能性があり, 処置時間も限られ, 出血, タービンの注水, 器具等の誤嚥の危険性もあるため全身麻酔を適応した。しかしながら, 意識下では拒否が強く静脈路確保ができないため, 亜酸化窒素・酸素・セボフルランを吸入させ, 入眠後に静脈路確保を行った。5p-症候群には小下顎症, 喉頭の低形成, 喉頭の狭窄, 長く湾曲した弁状の喉頭蓋, 狭索したし歯列弓がみられるために挿管困難が予想され, ファイバー挿管の準備を行なった。喉頭展開でのCormack分類はGrade 3であり, 喉頭蓋の先端しか確認できなかったが, 幸い盲目的経鼻挿管を施行することができ, ファイバーを使用せずに挿管し得た。局所麻酔にはオーラ注[®]を使用し, 処置内容は充填処置7本, 生活歯髄切断法4本施行した。手術終了後, 気管チューブを抜去し, 状態安定後に病棟に帰室させた。その後経過観察し, 状態が回復次第自宅に帰宅させた。

【結語】5p-症候群では, 日帰り全身麻酔下歯科治療が有効である。そして全身麻酔下での気道確保が困難であること。さらに口腔内の清掃性が悪く, 全身麻酔下での定期的メンテナンスが必要と思われる。

11) 小口症に対する部分欠損歯列の補綴的機能回復

○加藤 史仁, 山森 徹雄, 本間 濟, 安田 睦¹
清野 和夫, 金 秀樹², 大野 敬²
(奥羽大・歯・歯科補綴,
附属病院², 口腔外科)

小口症は口裂が異常に小さく, 口唇の伸展性にも欠け, 歯科治療が困難とされている。特に, 歯列の部分欠損に対する補綴治療においては術野へのアプローチが制限され, 術者側の困難性と患者の負担が生じる。今回, 後天的に生じた小口症に対する部分床義歯補綴を通して, 補綴的考慮を加えた。

症例は81歳の男性で, 平成19年6月, 下唇に発生した扁平上皮癌の診断の下, 口腔外科にて腫瘍摘出術と口唇形成術が施行された。同年9月, 手術後の経過が良好なことから咀嚼障害の改善を求めて総合歯科を受診した。

口唇部には手術時の切開線に沿った癒痕が認められ, 口唇の伸展性に欠け, 口裂周囲長は140mmであった。口腔内は③4⑤と4-1|23が残存し, 咬頭嵌合は失われ, すれ違い咬合の様相を呈していた。

本症例に対し主訴である咀嚼障害を早期に改善するため, 先ず暫間的に部分床義歯を装着することにした。口裂周囲長が短いため通法による印象採得が困難であることから, 概形印象はシリコーン印象材パテタイプの印象をトレーとしてインジェクションタイプで採得した。精密印象採得に際しては分割トレーを用いることにした。左右に分割したトレーをチャンネルと嵌合部により連結するよう設計した。トレー用レジンで設計に沿った分割トレーを製作し, それぞれを口腔内に挿入し筋圧形成後, シリコーン印象材で印象した。その際, 一方のトレーで印象後に界面ヘワセリンを塗布し, 他方のトレーを口腔内で組み込んで印象し